

高橋カーテンウォール工業株式会社

2011年度第2四半期 決算説明資料

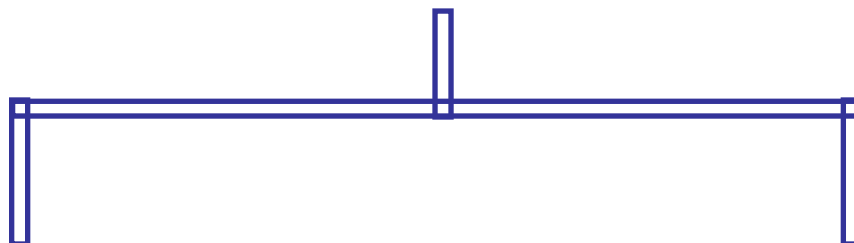
代表取締役社長：高橋 武治

TCW企業グループ構成



高橋カーテンウォール工業株式会社
TAKAHASHI CURTAIN WALL CORPORATION

- ・PCカーテンウォール製造
- ・アクア施設部(プール施工)



株式会社 タカハシテクノ

- ・不動産開発、賃貸、建設、内装、



株式会社 スパジオ

- ・収納家具

売上高業績推移表

【単位:百万円】

	連 結						
	06年12月期	07年12月期	08年12月期	09年12月期	10年12月期	11年12月期 2Q	11年12月期(予)
売上高	13,032	8,594	12,475	11,207	8,964	3,935	7,795
営業利益	77	172	409	315	-298	-295	-455
経常利益	172	71	273	258	-373	-300	-460
当期利益	-1,455	306	151	187	-425	-1,441	-1,630

	T C W 単 体						
	06年12月期	07年12月期	08年12月期	09年12月期	10年12月期	11年12月期 2Q	11年12月期(予)
売上高	7,244	5,553	6,531	6,623	7,913	3,299	6,370
営業利益	332	364	435	338	237	-102	-265
経常利益	532	367	411	341	213	-86	-230
当期利益	-1,470	242	117	307	-444	-1,298	-1,585

下期の見込み

- PCカーテンウォール部門の収益は厳しいが、来期以降に淘汰が進むと、受注単価が回復する可能性有。
- プール部門、建設子会社(テクノ)に関しては実質的に黒字化予定。

震災による特別損失30百万円

【関東工場の状況(つくば工場、結城工場)】

- ・ コンクリートを練るプラントの軽微な損傷やストックした製品の破損はあったが、大きな問題は無くすぐに復旧した。
- ・ 人的被害はなし。

2011年度連結第2四半期決算概要(前年同期比)

【単位:百万円】

	2010年12月期 第2四半期決算	売上高比	2011年12月期 第2四半期決算	売上高比	増減率
売上高	4,848	100.0%	3,935	100.0%	△ 18.8%
売上総利益	542	11.2%	120	3.1%	△ 77.8%
営業利益	13	0.3%	△ 295	△ 7.5%	-
経常利益	0	0.0%	△ 300	△ 7.6%	-
当期純利益	19	0.4%	△ 1,441	△ 36.6%	-

1. 粗利率低下による減益
2. 減損会計による特別損失等の発生(総額1,244)
 - 特別損失等内訳
 - ・滋賀工場の減損(677M)
 - ・繰延税金資産の取崩(407M)
 - ・蛍光管型LED等在庫の減損(92M)
 - ・SPZ在庫処理(38M)
 - ・震災被害(30M)

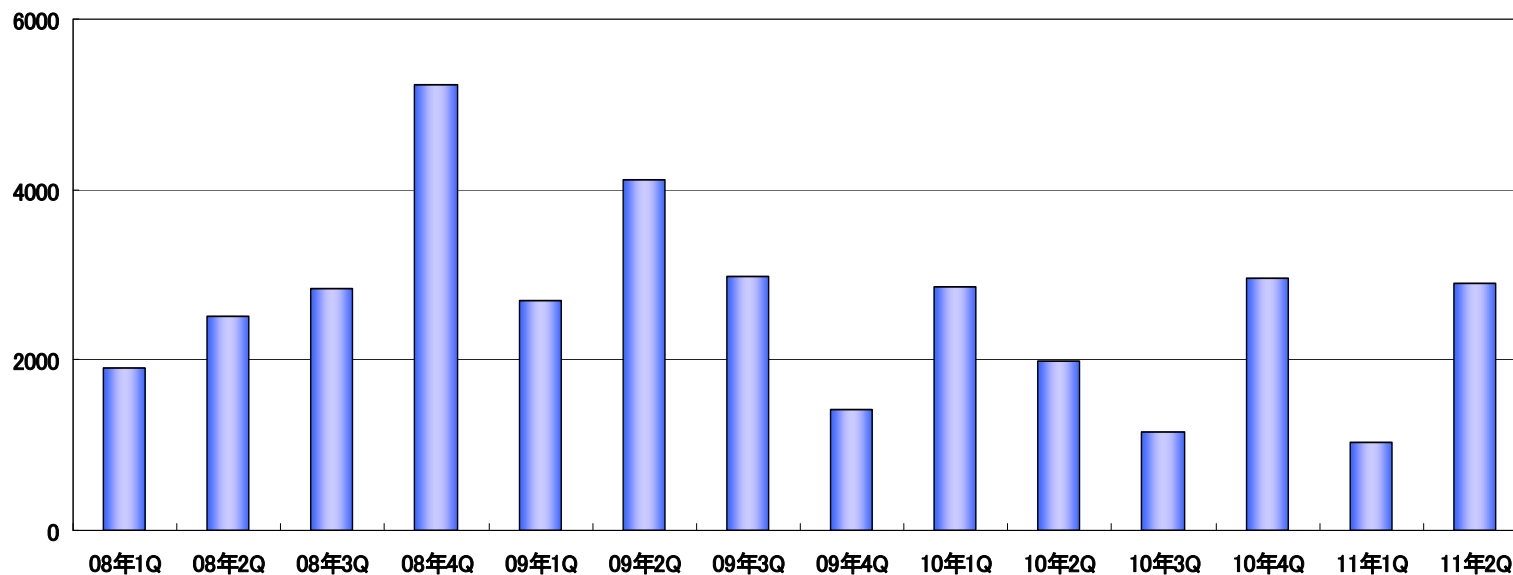
2011年度連結第2四半期決算概要(前年同期比セグメント別)

【単位:百万円】

	2010年12月期 第2四半期決算	売上高比	2011年12月期 第2四半期決算	売上高比	増減率
売上高	4,848	100.0%	3,935	100.0%	△ 18.8%
高橋カーテンウォール	4,183		3,299		
スパジオ	142		129		
タカハシテクノ	524		641		
相殺	△ 1		△ 134		
売上総利益	542	11.2%	120	3.1%	△ 77.8%
高橋カーテンウォール	507		251		
スパジオ	△ 7		△ 65		
タカハシテクノ	38		△ 55		
相殺	4		△ 11		
営業利益	13	0.3%	△ 295	△ 7.5%	-
高橋カーテンウォール	147		△ 102		
スパジオ	△ 20		△ 74		
タカハシテクノ	△ 128		△ 119		
相殺	14		0		
経常利益	0	0.0%	△ 300	△ 7.6%	-
高橋カーテンウォール	156		△ 86		
スパジオ	△ 16		△ 71		
タカハシテクノ	△ 138		△ 130		
相殺	△ 2		△ 13		
当期純利益	19	0.4%	△ 1,441	△ 36.6%	-

四半期ごとの売上推移(連結)

【単位:百万円】

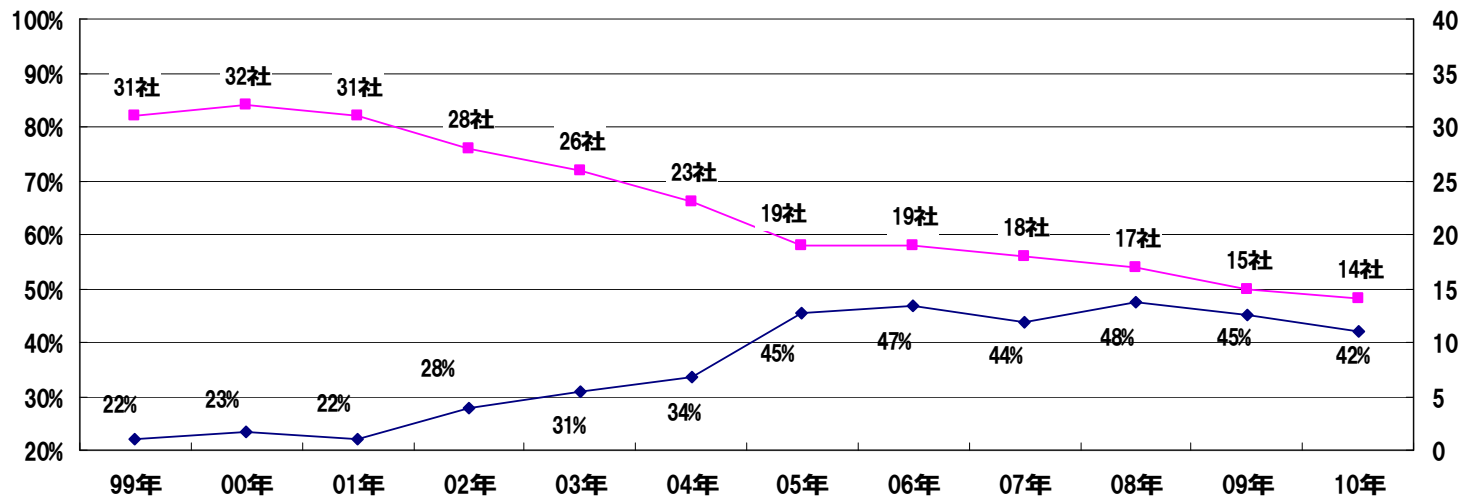
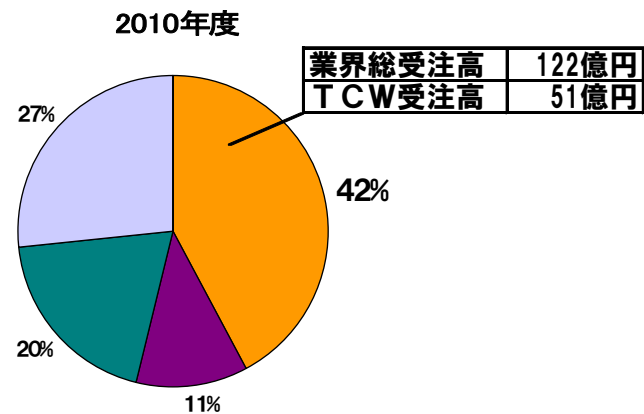
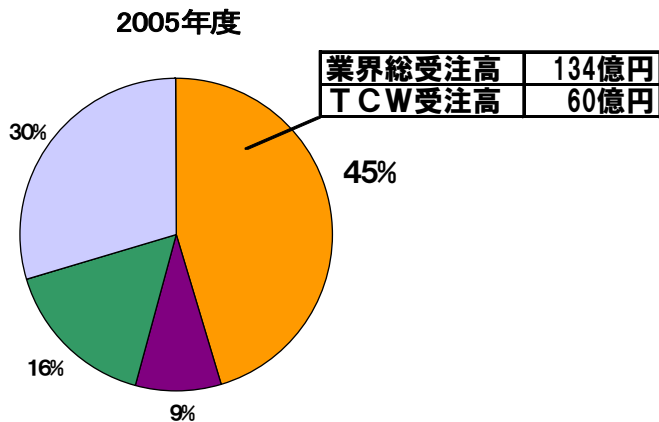


- 08年4Qでは、子会社タカハシテクノにてコリーナ和泉の建築・内装の工事が完成し、2,705百万の売上が上がったため。
- 09年2Qでは、子会社タカハシテクノにて大型物件の完工もあり、売上が1,812百万となったため。

1. 今期に減損すべきものはすべて落とす
→ 今期の赤字はやむを得ず
2. 来期は不動産売却等による特別利益計上で
当期利益を黒字化
3. 更なる差別化により本業の受注単価を上げ、
営業黒字を目指す

TCW全国マーケットシェア (2005-2010)

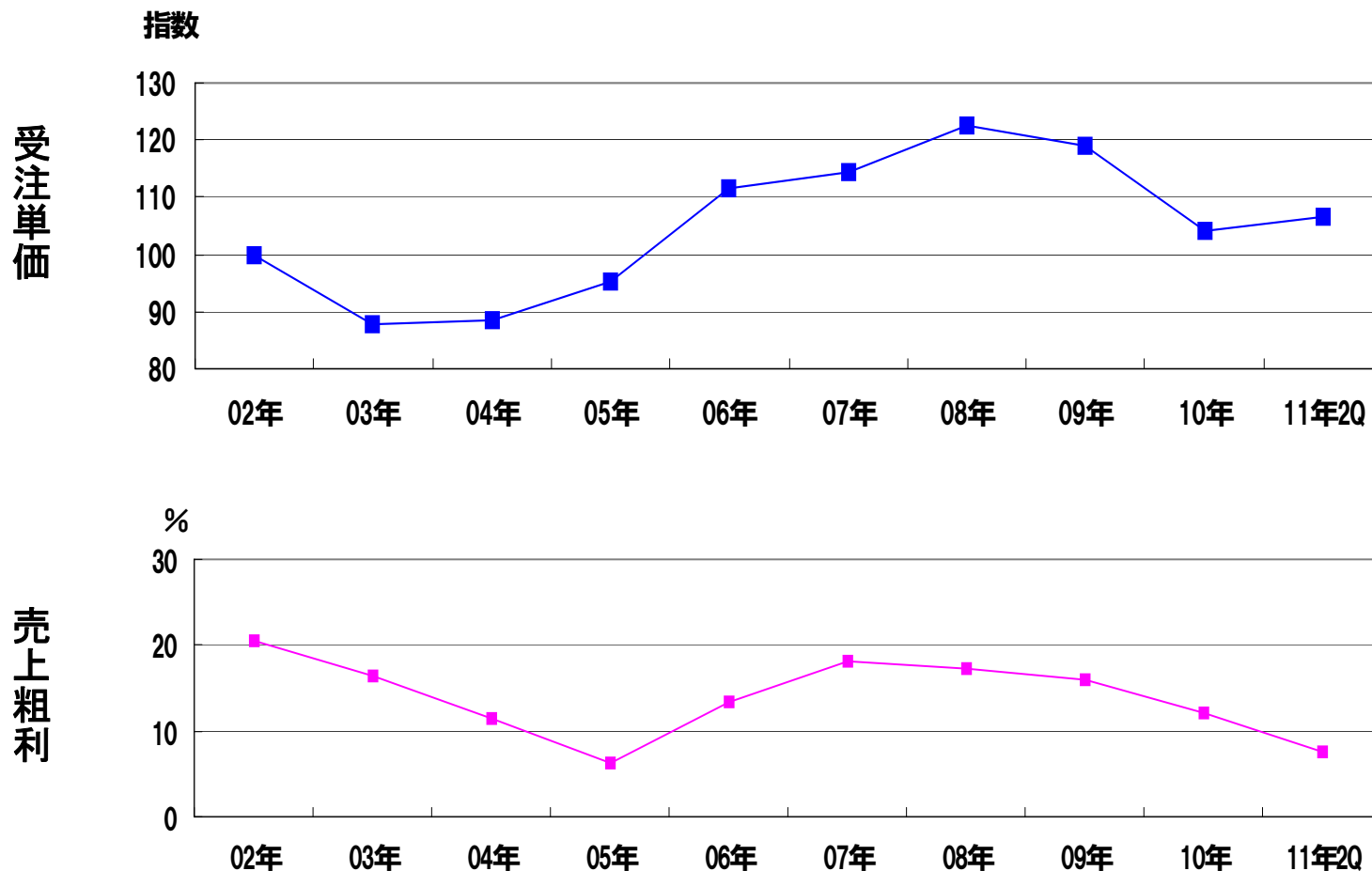
今後はさらなる淘汰が進むと、シェアは上がっていく見込み



資料:PCSA協会マーケティング部会及び当社ヒアリング数字 9

受注単価推移

2011年2Qの受注単価が回復したのは、差別化商品であるアーキテクチャルコンクリートの比率が高まったため。ただし、この商品は原価も高いため利益率が大きく改善するとはいえない。



2011年度通期予測(セグメント別)

【単位:百万円】

	2011年12月期 第2四半期決算	売上高比	2011年12月期 通期予測	売上高比
売上高	3,935	100.0%	7,795	100.0%
高橋カーテンウォール	3,299		6,370	
スパジオ	129		440	
タカハシテクノ	641		1,570	
相殺	△ 134		△ 585	
売上総利益	120	3.0%	370	4.7%
高橋カーテンウォール	251		455	
スパジオ	△ 65		△ 80	
タカハシテクノ	△ 55		40	
相殺	△ 11		△ 45	
営業利益	△ 295	△ 7.5%	△ 455	△ 5.8%
高橋カーテンウォール	△ 102		△ 265	
スパジオ	△ 74		△ 100	
タカハシテクノ	△ 119		△ 65	
相殺	0		△ 25	
経常利益	△ 300	△ 7.6%	△ 460	△ 5.9%
高橋カーテンウォール	△ 86		△ 230	
スパジオ	△ 71		△ 95	
タカハシテクノ	△ 130		△ 90	
相殺	△ 13		△ 45	
当期純利益	△ 1,441	△ 36.6%	△ 1,630	△ 20.9%



【見通しに関する注意事項】

本資料に掲載されている中で、下期の予測あるいは今後の見通し等が含まれていますが、実際の結果は様々な要因により記述内容と大きく異なる可能性があります。